

ながはま
21市民
会議

社団法人 長浜青年会議所

ながはま21市民会議 活動経過報告書を作成するにあたって

*****私たち、ながはま21市民会議は、
21世紀を見つめ、互いに討議し行動します。*****

- ①広い視野に立って郷土の将来を考えよう。
- ②心豊かな住みよい郷土を築き上げよう。
- ③伝統ある文化と歴史を活かし、郷土の健全な発展を実現しよう。
- ④市民の総意を結集し、これを市政に反映させよう。



ながはま21市民会議は、昭和57年12月に設立され、上記運営方針のもとに様々な活動が展開されてきました。

(社)長浜青年会議所は、明るい豊かな地域づくりのために、市民とともに行動する『ながはま21市民会議』の設立を提唱し、設立当初より事務局として表裏一体となって活動しています。平成4年で丸十年が経ち、これを1つの契機として、『ながはま21市民会議』の設立に至るまでの経緯を踏まえ、設立後の活動を辿りながら具体的な提言をまとめることが、『ながはま21市民会議』の更なる躍進につながるものと確信します。

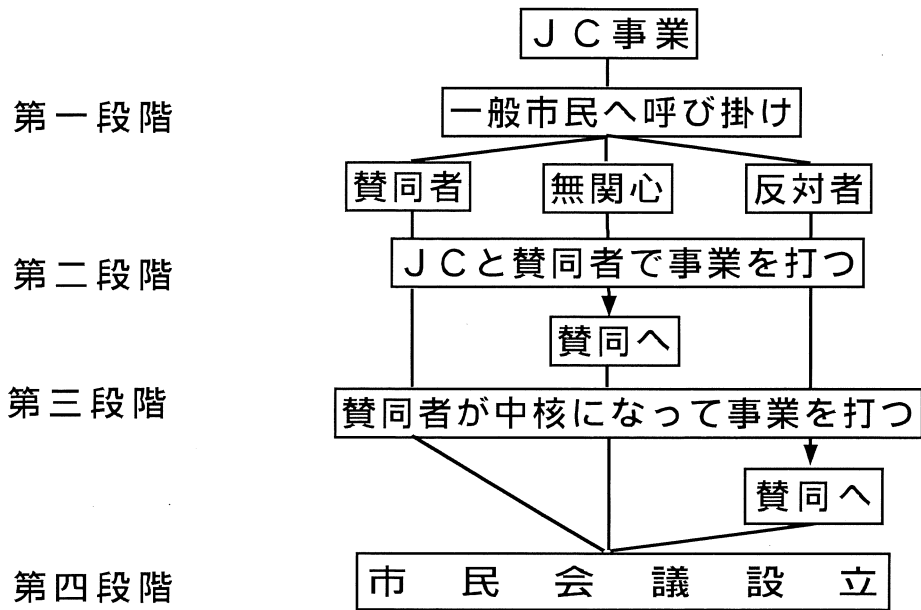
私たち、青年会議所会員は、これまでの『ながはま21市民会議』の活動内容を十分に理解することはもちろんのこと、21世紀が目前に迫った今、『ながはま21市民会議』による新たなまちづくり運動を模索していく責務があるのではないのでしょうか。

目次

■ 概 論	-----	1
■ 設立趣意書	-----	6
■ 年 表	-----	7
■ 年度別変遷 S57~	-----	8
■ 昭和58年	-----	11
■ 昭和59年	-----	16
■ 昭和60年	-----	18
■ 昭和61年	-----	20
■ 昭和62年	-----	21
■ 昭和63年	-----	23
■ 平成 元年	-----	25
■ 平成 2年	-----	26
■ 平成 3年	-----	28
■ 平成 4年	-----	31
■ おわりに	-----	32

概 論

ながはま21市民会議は、その活動状況や運営面において、もはや全国的に見てもトップクラスに入るものと自負しています。市民会議運動は一般的に、社会開発運動の成熟段階（過去によくいわれた「を」「と」「が」運動における「が」の域）によく使われる手法ですが、長浜の場合は手法としてではなく、過去におけるJC運動から成るべくして成ったといえます。標準的な社会開発プログラムとして



というぐあいに（勿論こんなに簡単なものではなく、単純な流れとして）書くことができます。

（社）長浜青年会議所における市民会議運動（それに限らず）を語る時に、長浜の歴史的文化的土壌を抜きには語れません。ここで詳しく歴史をさかのぼっては書きませんが、大きな要素として箇条書きにあげると

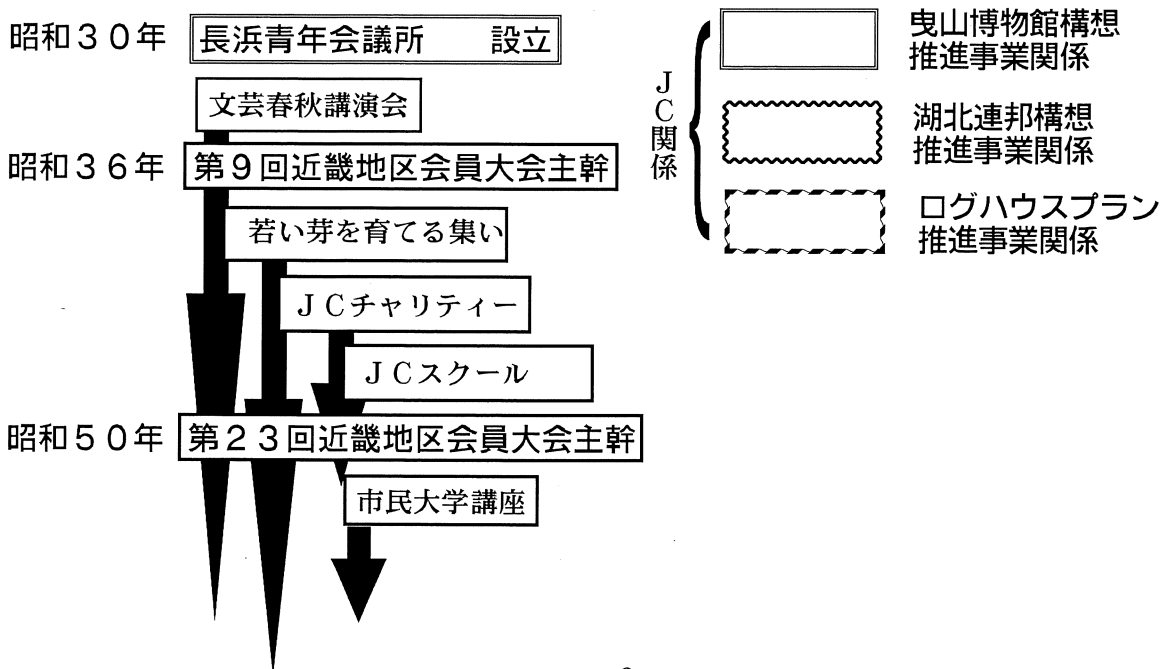
- 豊臣秀吉により開かれた城下町（楽市楽座による商業の繁栄）
- 長浜曳山祭に見られる高度な街衆文化
- 県下初の小学校や銀行、日本で3番目にしかれた鉄道等々、極めて進取の気性が高い
- 歴史的遺産、文化財が数多く点在していて、昔から文化水準が高い
- 湖北人氣質（経済性、民度、進取等々）がいまも脈々と流れている
- 古くから交通の要衝であった

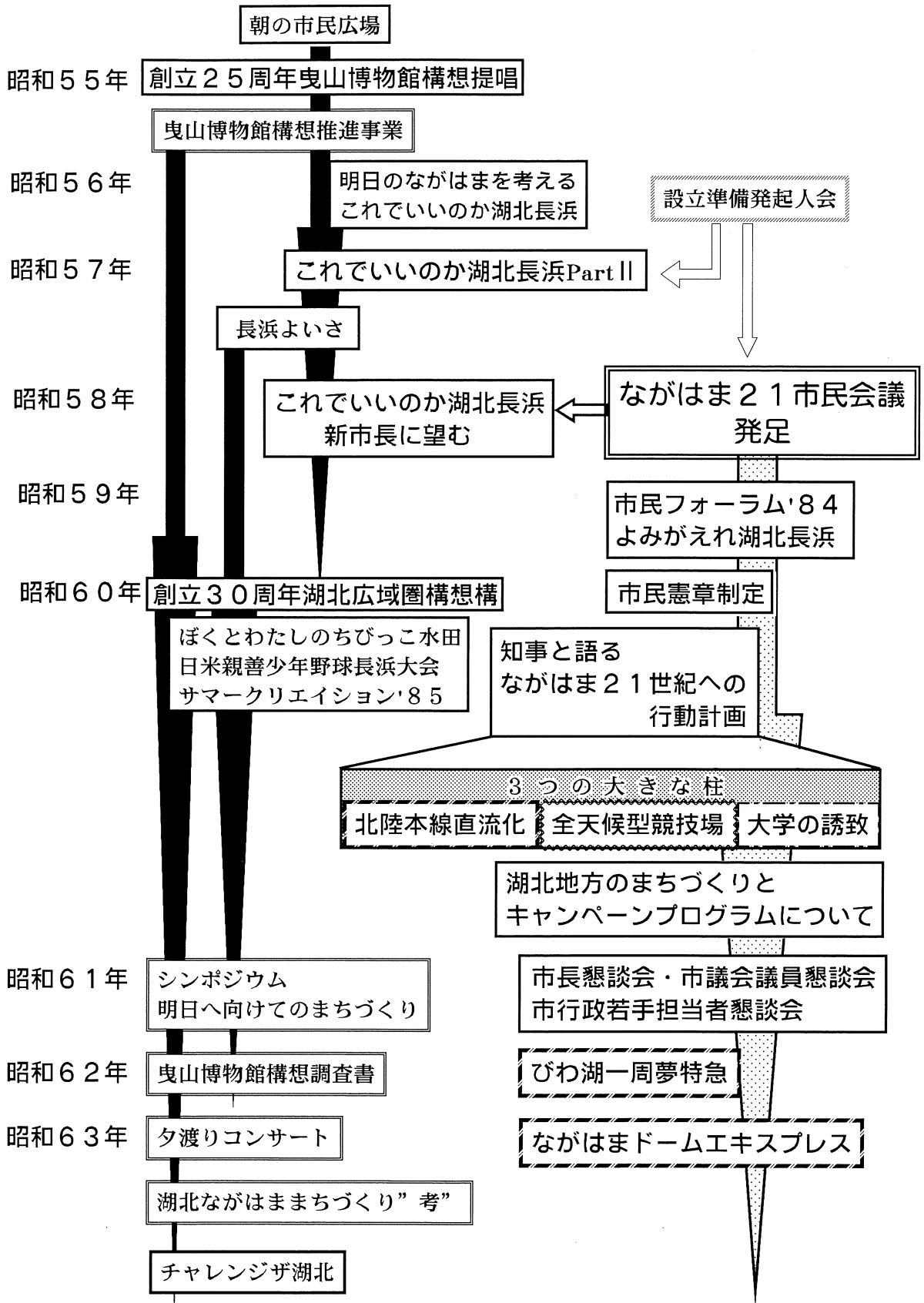
等々になります。これらの特色を生かしながら、なおかつ時代を先取りした素晴らしいまちづくりを行なわなければなりません。

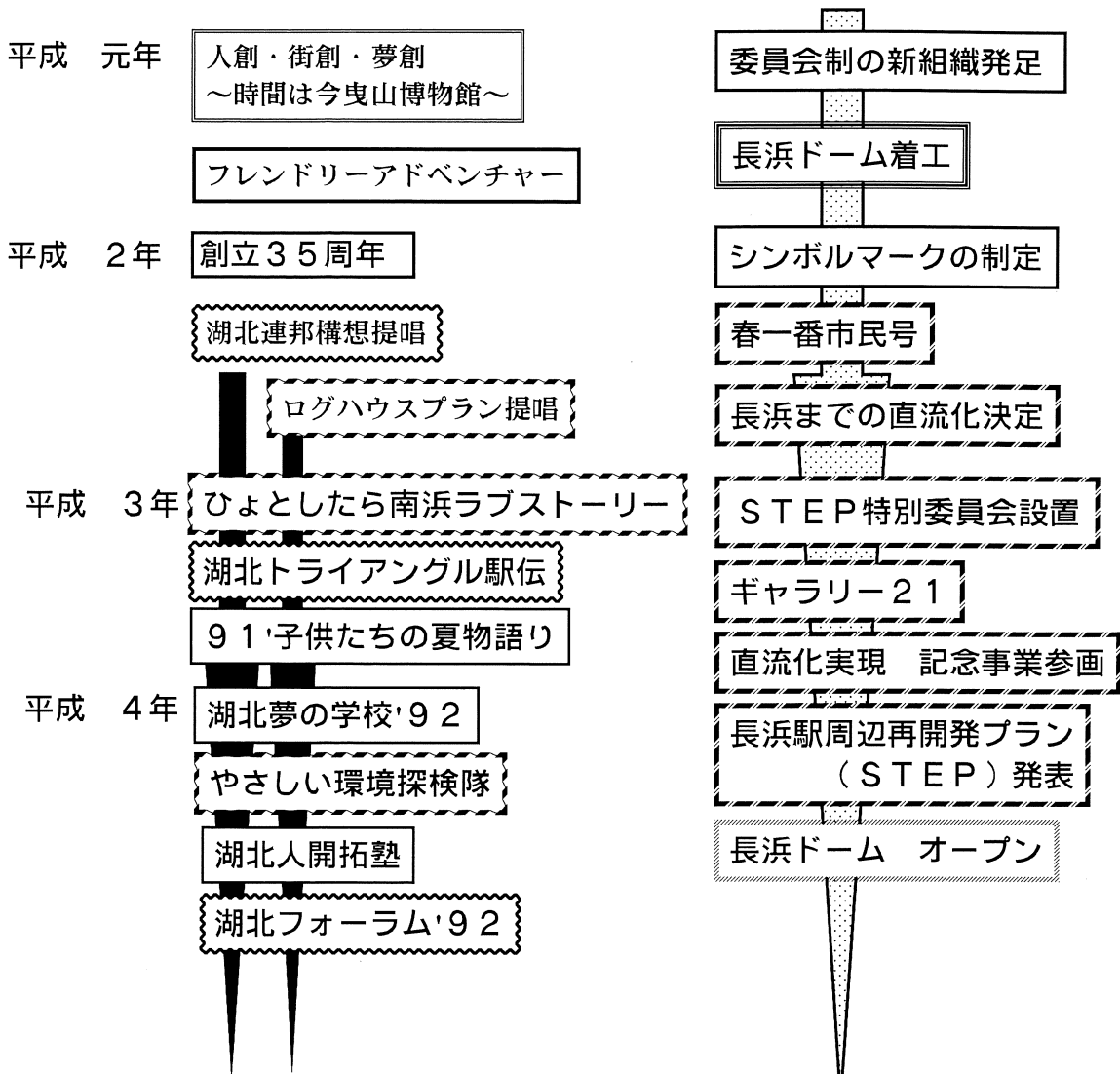
長浜青年会議所は、進取の気性のごとく、いち早くこれらの特質に着目しさまざまな事業を展開してきました。

しかし、前述のような素晴らしい特質がありながら、大きな時流の流れを感じつつも、ぬるま湯にどっぷりつかったつけが、長い間栄えてきた商店街に廻ってきたのです。商店街の衰退化はじわじわと周辺部におよび、湖北全体としての危機感が募ってきました。

昭和56年（社）長浜青年会議所主催による「明日の長浜を考えるシンポジウム」～これでいいのか湖北長浜～を開催しました。湖北の活性化に向けて具体的行動の展開を地域住民の共通の課題として認識し、論議を高めることを目的として開催しました。そして、市民会議を設立すべく発起人会が招集されました。以下青年会議所運動と、市民会議の歩みを図式化しますと



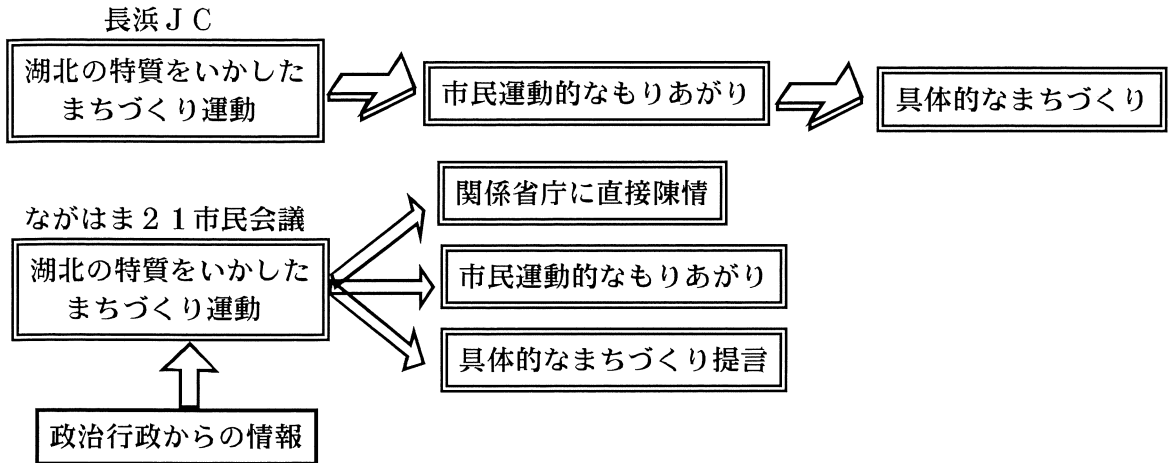




ながはま21市民会議の詳しい活動内容は、この後に書かれている年度別活動報告を見ていただきますと、よくわかると思います。

このように2つの団体の根底に流れている基本的な理念、すなわち湖北の特質に着目してまちづくりをおこなうという考え方は同じでも、表立った感じはかなり違います。出発点は同じでも、その役割分担がだんだん明確になっていくのがよくわかります。一見独り歩きしているようにもみえます。それはそれで、独自性が出てきて好ましいことですが、今も長浜JCは事務局として、その方向性に関与しているのは、いうまでもないことです。

話は前後しますが、この「ながはま21市民会議」の生まれてくる背景について述べてみます。それは、JC運動と市民会議運動の手法の違いから説明します。



当時の長浜は、彦根市やとりわけ湖南地方との都市間競争力が際だって落ち、このままでは、かつて栄華を誇った長浜が崩壊してしまうという危惧が高まっていました。

今までのようにのんびりとはしてられません。手っとり早い方法として、市民運動は勿論のこと、市民の声として直接行政に働きかける必要がありました。

JC運動の枠にとらわれずにダイナミックに事業を行い、ダイレクトに行政や関係機関に陳情をする、という組織が生まれてきたのは、この地にあって当然のことかもしれません。

しかしその背景には（社）長浜青年会議所が地道に行ってきた社会開発運動によって、ある程度の土壌が出来ていたのと、やらなければならないというオピニオンリーダーが、かつての街衆の心意気に目覚めたということがいえます。

このように（社）長浜青年会議所は、ながはま21市民会議の事務局として参画し影響を与えながら、その運動には独自性を持たせ、その役割を明確にしながら現在に到っています。

『ながはま21市民会議』設立趣意書

この長浜この湖北、そしてこの日本に生まれ育ってきた私達は、誰ひとりとして郷土のゆく末に心を寄せないものはないでしょう。そして、郷土の豊かなたづまいと、健全なる発展は、私達長浜市民すべての願いでもあります。

勿論行政もこのことは充分配慮した上で数々の施策を打ち出していることと思いますが、財政上、機構上あるいは政策的な制約の上から、私達の願いが十分に行政に反映されているとはとても言えないのであります。こういった意味でとかく無関心であった行政そのものにもっと私達市民の目を向け、民間の息吹を吹込むことによって、その強力な組織と財政力を有効に機能させることが私達に課せられた使命ではないかと考えます。

昨年、本年と続いて開催された「これでいいのか湖北長浜」と題するシンポジウムにおいても、講演やパネルディスカッションを通じて長浜市の将来の展望を考えるにあたって、行政に頼るのみでなく、もっと行政に目を向け参画する必要が訴えられました。

おりしも、長浜市は博物館都市構想を発表し、滋賀県も国民休養県構想や東北部構想を打ち出しています。私達は長浜市という行政区画の枠を超えて広域的視点から、将来の長浜を考えなければならないことも明らかです。そして湖北のために長浜がしなければならないこと、できることを実行しなければなりません。地方の時代といわれ、量から質へ、物から心へと多様化していく現在、明日の長浜市を考えるにあたり今こそ民間レベルによる地域を考えるような機関の設置が必要ではないでしょうか。

400有余年の長浜の歴史の中で、江戸時代には進取の気性に富んだ町衆が商工業の繁栄と他に抜きん出た文化を生み、明治初期にあつては民間の積極的な文明開化への取組みが大きく町の発展に寄与した事実があります。

上記のような観点から、ここに私達は、湖北長浜に住む心ある市民が参画し、郷土の21世紀を見つめて互いに討議し、行動する「ながはま21市民会議」の設立を提唱致します。

「ながはま21市民会議」発起人代表 高橋政之

ながはま21市民会議 10年のあゆみ

	個人会員数	賛助会員数	事業展開
昭和58年	206	30	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>1月設立 シンポジウム「これでいいのか湖北長浜」 <small>新市長を囲み将来の長浜について 討論を行なった。(参加者250名)</small></p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の提言</div> ↓ 市民会議案の作成 ↓ 長浜市に市民憲章の準備委員会が作られる ↓ 市民憲章制定の制定 </div> </div>
昭和59年	219	112	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>市民フォーラム'84「よみがえれ湖北長浜」 <small>まちづくりの先進地の講師を招き まちづくりについての分科会を行なった。 (参加者240名)</small></p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>
昭和60年	262	108	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>シンポジウム「これでいいのか湖北長浜」 —知事と語る—ながはま21世紀への行動計画 <small>知事を囲みここで3つの提案がなされた 市長懇談会 (参加200名)</small></p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>
昭和61年	294	100	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>市長懇談会 市議会議員懇談会 市行政若手担当者懇談会</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>
昭和62年	214	72	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>びわ湖一周夢特急 <small>特急列車を使い、初めてびわ湖を一周した 車内では湖北に関心をもってもらえるようなゲームや さまざまなイベントを開催した。(参加者422名)</small></p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>
昭和63年	223	119	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>長浜ドームエクスプレス <small>北陸線の直流化と全天候型競技場の建設の推進を目指して 長浜駅発東京行の特別列車を仕立てて、車内でイベントを 行ないながら東京ドームで野球観戦をした。(参加者400名)</small></p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>
平成元年	207	99	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>委員会制の組織にする 会員原簿の作成</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>
平成2年	347	120	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>シンボルマークの決定</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>
平成3年	393	133	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>STEP特別委員会設置 ギャラリー21</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>
平成4年	465	147	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>総会・STEPの発表 拡大委員会</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">市民憲章制定の制定</div> ↓ 北陸線の直流化 全天候型競技場の建設 大学等の誘致 </div> </div>

まだ組織は形成されず、事業もJ C主体であるため、関わり方については説明できない。したがって、発起人会や頻繁に開催されている運営委員会、その他の関係ある委員会等の、記録を見ることにより胎動期、誕生期の様子がよくわかる為、記述する。

- 9 / 16 第一回発起人会 開催 発起人25名
- ・ 設立趣意の決定
 - ・ 世話人会をつくり組織を考えていく
 - ・ シンポジウムについて

シンポジウム「これでいいのか湖北長浜」

- 日時 昭和57年9月26日
主催 市民会議発起人会の準備委員会
場所 長浜商工会議所 大ホール
内容 1. 県下七市の比較資料の発表
2. 基調講演
「滋賀県にとっての湖北」
講師 滋賀県知事 武村正義 氏
3. パネルディスカッション
「これでいいのか湖北長浜」
長浜J Cは事務局として参加

J Cの内部的には、J C統一デー実行委員会の趣意書のなかで、市民会議運動を以下のように、位置付けている。

J C統一デー事業 趣意書 抜粋

経済成長の終焉という時代背景とともに、全国的な価値感の見直しの風潮がおこり、人々は自らの生活基盤そのものの充実と豊かさを求め始め「地方の時代」ということばが流行語にもなりました。それは、具体的には各地域に埋もれていたり、・～略～・、或いは新たなコミュニティ行事の創造という形で具現化されて参りました。

このような「コミュニティ回帰現象」に呼応するように、我が長浜ロムはもとより、全国の青年会議所は時代の風潮を先取りし、それぞれ独自の地域開発運動を展開し・～略～・ここにきてやっと一般地域住民からJ Cが認知されてきたのではないのでしょうか。

しかし乍ら我々は、地域における単なる「行事屋」に終わってはなりません。

我々の目指す豊かな地域社会とは一人一人が権利義務意識をわきまえた成熟した市民社会のことであり、・～略～・いみじくも本年度福永理事長の所信には「要望型から討議型」への変換が謳われておりますが、地域開発運動を志す我々の次なる目標がこの言葉に凝縮されているように思われます。

本年度J Cデー統一事業にあたり、我々は以上のような流れをふまえつつ、次なる時代に目を向けて、具体的な2つの方向性の事業を企画致しました。1つは「長浜21st 市民会議（仮称）」という市民サイドからの地域を考える場づくりであり、もう1つは地域連帯意識の高揚を目的とする「秋まつり長浜よいさ」の開催協力です。

双方の事業ともある意味では、これからの長浜J Cの方向性を・・・・略・・・

また、市民会議自体の設立について、内部的に

JCデー統一事業

仮称「ながはま21'sth市民会議」設立趣意書（抜粋）

いま日本中で行政改革の嵐がふきまくり、・～略～・行政そのものに市民の厳しい目を向けることにより、行政活動へ民間の活力を吹き込むことではないかと考えます。

我々（社）長浜青年会議所は、昨年9月「これでいいのか湖北長浜」と題してシンポジウムを開催し、講演やパネルディスカッションを通して我々市民一人一人が行政に頼るのみでなく、行政にもっと目を向け参画する必要性を訴えて参りました。又、それに呼応するかのように長浜市も博物館都市構想を発表し、・～中略～・広域的視点から将来の長浜を考えねばならないはずです。・～中略～

このためにも、行政主導型でない民間レベルによる地域を考えられるような機関の設置が必要ではないでしょうか。

上記のような観点に立って湖北長浜に在住する有為有識の市民の参画を願い、湖北長浜の21世紀を見つめて互いに討議し、提言し、行動を起こしていかなければならないと考え、仮称「ながはま21'sth市民会議」の設立を提唱します。

というように、記録が残っている。

- 12 / 16 第2回発起人会
- ・世話人選出
 - ・設立趣意書決定
 - ・規約決定
 - ・役員の決定
 - ・会員募集

2 / 2

打ち合わせ会

会長 副会長とJCメンバーとの打ち合わせ

この中で

草案委員会

運営方針等のたたき台づくり

組織委員会

組織の問題を考える

を決めた。

3 / 1 6

草案委員会

- ・市民憲章の制定について
- ・長浜の旧町名の復活を提唱

4 / 2 6

運営委員会

- ・運営方針について
市民会議から市民憲章を提唱
- ・会員拡大について
募集要項を作る 綱領・入会案内・趣意書等
の印刷
会員募集については運営委員会及び青年会議
所が協力する。

5 / 1 6

草案委員会

- ・運営方針について

私達ながはま21市民会議は郷土の21世紀を見つめ
互いに討議し行動する。

1. 広い視野に立って郷土の将来を考えよう
2. 心豊かな住み良い郷土を築き上げよう
3. 伝統ある文化と歴史を活かし、郷土の健全な発展
を実現しよう
4. 市民の総意を結集し、これを市政に繁栄させよう

・ 市民憲章草案について

1. 歴史と伝統を現在に生かし、活力と風格のあるまちをつくり
ます
2. めぐまれた自然を愛し安全で快適なまちをつくり
ます
3. 人間性をはぐくみ創造性にみちた文化と教養のまちをつ
くり
ます
4. からだと心のみがき健康で生きがいのあるまちをつくり
ま
す
5. 自由な発想のもとに未来と世界をみつめるおおらかなま
ち
をつくり
ます

5 / 25 市議会事務局との話し合い
・ 陳情と請願について

6 / 6 運営委員会

- ・ 運営方針に関する件
上記運営方針可決 市民憲章は学識経験
者に字句の修正原案を市へ提案
- ・ 会員拡大について
- ・ 専門委員会設置について

※ 運営委員会とは
十数人の運営委員（いろんな分野で活躍されてい
る方々）で構成する市民会議を具体的に動かす総
括的な委員会

6 / 27

運営委員会

・ 会員募集に関する件

入会パンフレット 5000部印刷

割当募集人数

個人会員

運営委員1人当り10名 250名

J Cメンバー 3名 330名

法人会員

運営委員1人当り 2団体 50団体

J Cメンバー 1団体100団体

期間 7月～8月

・ 事業計画にかかる専門委員会設置について

会員拡大委員会

組織委員会のメンバー中心

J C 政治問題委員会

事業企画専門委員会 8名

J C 総合企画委員会

・ 機関誌 第1号を9月頃発行

・ 新聞発表 6月末に記者発表

7 / 5

事業企画専門委員会

・ 8月に運営委員と市会議員との懇談会

・ 9～10月に事業を行う

7 / 2 5

運営委員会

- ・市会議員との懇談会について 8月11日
- ・9月にシンポジウム

8 / 1 1

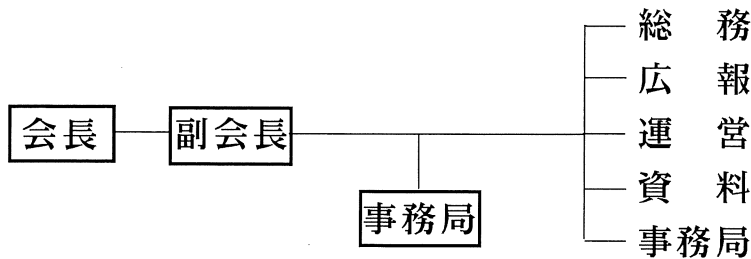
運営委員と市会議員との懇談会

- ・市民憲章に関する件
- ・市街地再開発に関する件
- ・大学誘致に関する件
- ・博物館構想に関する件

8 / 2 2

運営委員会

- ・シンポジウムに関する件
- 「これでいいのか湖北長浜－新市長にのぞむ」
- 9月15日 商工会議所大ホール
- 講師 中山正暉衆議院議員 予定
- パネラー 市民会議
- 婦人団体
- 市青連
- マスコミ
- J C



- 9 / 1 2 シンポジウム実行委員会
 ・講師 伊能忠敏 氏 に変更
 開催日 9月24日に変更

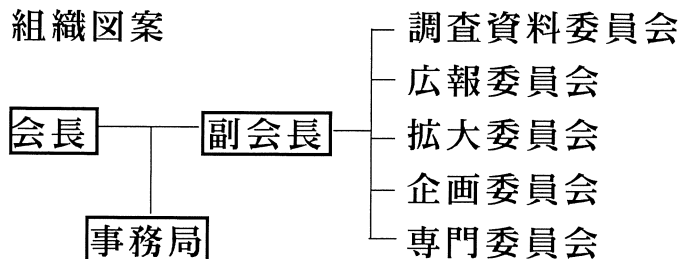
**シンポジウム
 「これでいいのか湖北長浜—新市長にのぞむ」**

参加250名

日時 9月24日
 主催 ながはま21市民会議
 後援 (社)長浜青年会議所

10 / 2 4 運営委員会

- ・シンポジウム事業報告決算
- ・委員会設置
 組織図案

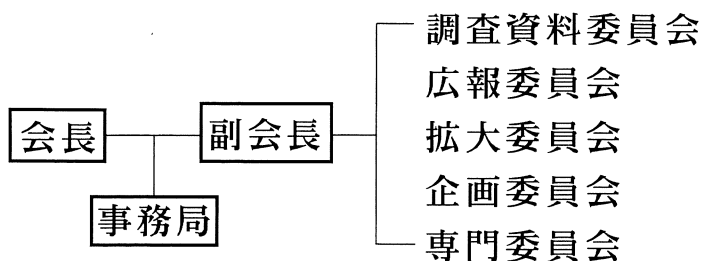


- ・会員拡大
 個人 約200名 賛助会員24団体

- 11 / 1 8 拡大委員会
 ・各団体例会日に訪問 説明勧誘役割分担

12 / 6 運営委員会

- ・決算及び予算に関する件
- ・各委員会事業計画に関する件
- ・今後の運営に関する件



市長との懇談会

市側	市長始め 7名	議題	大雪対策について
市民会議	11名		市民憲章について
J C	8名		博物館都市構想について
			祭について

市民憲章請願

市民フォーラム84'

よみがえれ湖北長浜

—語ろう未来のまちづくり—

主催 ながはま21市民会議 参加240名

後援 (社)長浜青年会議所

日時 昭和59年12月2日

午後1時～4時30分

場所 長浜商工会議所 大ホール

内容 オリエンテーション

分科会

①大阪21世紀協会 広報部長 上野隆敏氏

②大阪をあんじょう

する会 幹事 森 一貫氏

③神戸市企画課 参事 高寄昇三氏

④商店街コンサルタント 山岡正勝氏

開催趣旨 要旨

過去2回のシンポジウムを行ない数多くの提言をしてきました。これらの声を市政に繁栄すべく機会があるごとに訴えてきました。いろいろな問題がありますが、1つの理念に基いた辛抱強い運動を続けることにより解決するものと確信致します。

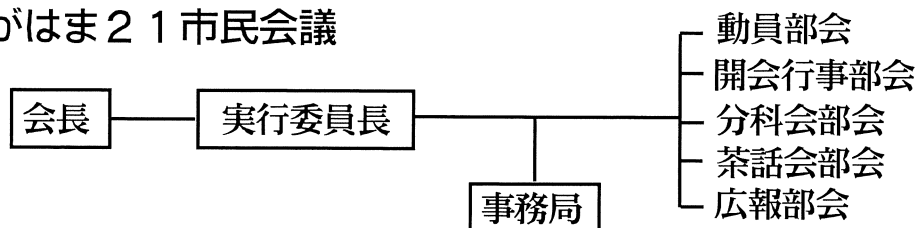
視点を変えてみれば、同じ近畿圏でも各地でさまざまな新しい試みがためされ着実に効果を上げています。

これらの地域の先進の考え方に触れることは、活性化の突破口を探る上で大きな意義があります。

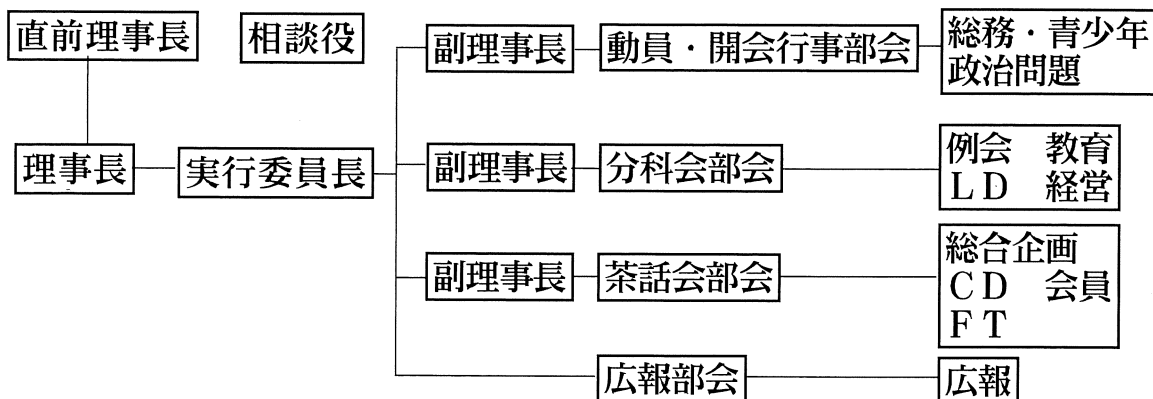
「これでいいのか」という問いかけを常にしつつ、21世紀への布石となるものを築いていこうではありませんか。

実行委員会組織

ながはま21市民会議



(社)長浜青年会議所



長浜商工会議所会頭との懇談会

日時 昭和60年7月16日

場所 長浜商工会議所

長浜商工会議所石居会頭、長浜主婦連河瀬副会長、市民会議高橋会長の3名で「駅前再開発計画」にの提言について懇談した。

市長懇談会

日時 昭和60年7月16日

場所 長浜商工会議所

- ・北陸本線直流化問題について
- ・駅周辺の整備および再開発について
- ・若者の定着の一手段である工場誘致について
- ・大学誘致について

シンポジウム「これでいいのか湖北長浜」 —知事と語る—ながはま21世紀への行動計画

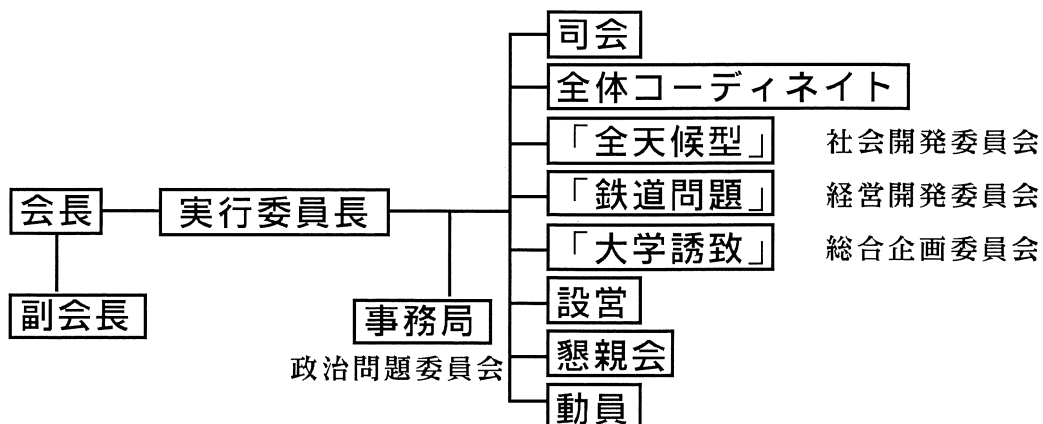
日時 昭和60年11月21日

場所 北ビワコホテル住文

今までの成果を踏まえつつ、市民会議の原点である市民が相集い共に考える場として、また今回は論点を具体的に絞り、会議参加者自身が考えて頂くことを主眼として、21世紀を見据えた息の長い運動へつなげる目的でシンポジウムを開催した。

- ①鉄道問題と長浜駅再開発について
- ②大学等教育機関の創設について
- ③全天候型競技場の建設と湖周道路の全線開通について

シンポジウム当日実行委員会



まちづくり懇談会

日時 昭和60年11月25日

場所 長浜商工会議所

都市開発コンサルタント淀野隆之氏を迎え、「湖北地方のまちづくりとキャンペーンプログラムについて」の講演と参加者の意見交換をおこなった。

長浜市議会議員との懇談会

日時 昭和61年9月29日

場所 長浜市役所

- ・全天候型競技場について
- ・北陸本線直流化問題について
- ・大学誘致について

武村代議士との懇談会

日時 昭和61年10月4日

場所 武村ムーミンハウス

- ・全天候型競技場について
- ・北陸本線直流化問題について

全天候型競技場に関する懇談会

日時 昭和61年10月9日

場所 滋賀県庁

- ・青少年社会教育課課長、企画部次長
秘書課参事の方との懇談

長浜市長との懇談会

日時 昭和61年11月7日

場所 長浜市役所

- ・全天候型競技場について
- ・北陸本線直流化について

新市議会議員との懇談会

日時 昭和62年6月27日
場所 長浜市役所

新議員の「21世紀に向けてのまちづくり論」を拝聴し、当市民会議は、活動趣旨や概論、運動展開の方向性について説明をおこない、相互理解の場となった。

春の北国街道散策

日時 昭和62年3月29日
場所 北国街道沿い

会員及び会員家族を対象に、黒壁等復興著しい北国街道を散策した。

琵琶湖一周夢特急

主催 ながはま21市民会議
後援 (社)長浜青年会議所
長浜市
直流化期成同盟

共催 滋賀県
協賛 観光協会 びわ湖放送

日時 昭和62年10月14日 参加者 500名



特別臨時列車を走らせ、各種イベントを列車内で催しながら滋賀県を一周し、直流化に対するPRと共に市民に呼び掛けた。

昭和63年

長浜ドームエクスプレス

日時 昭和63年8月20日～21日

主催 ながはま21市民会議

共催 (社)長浜青年会議所

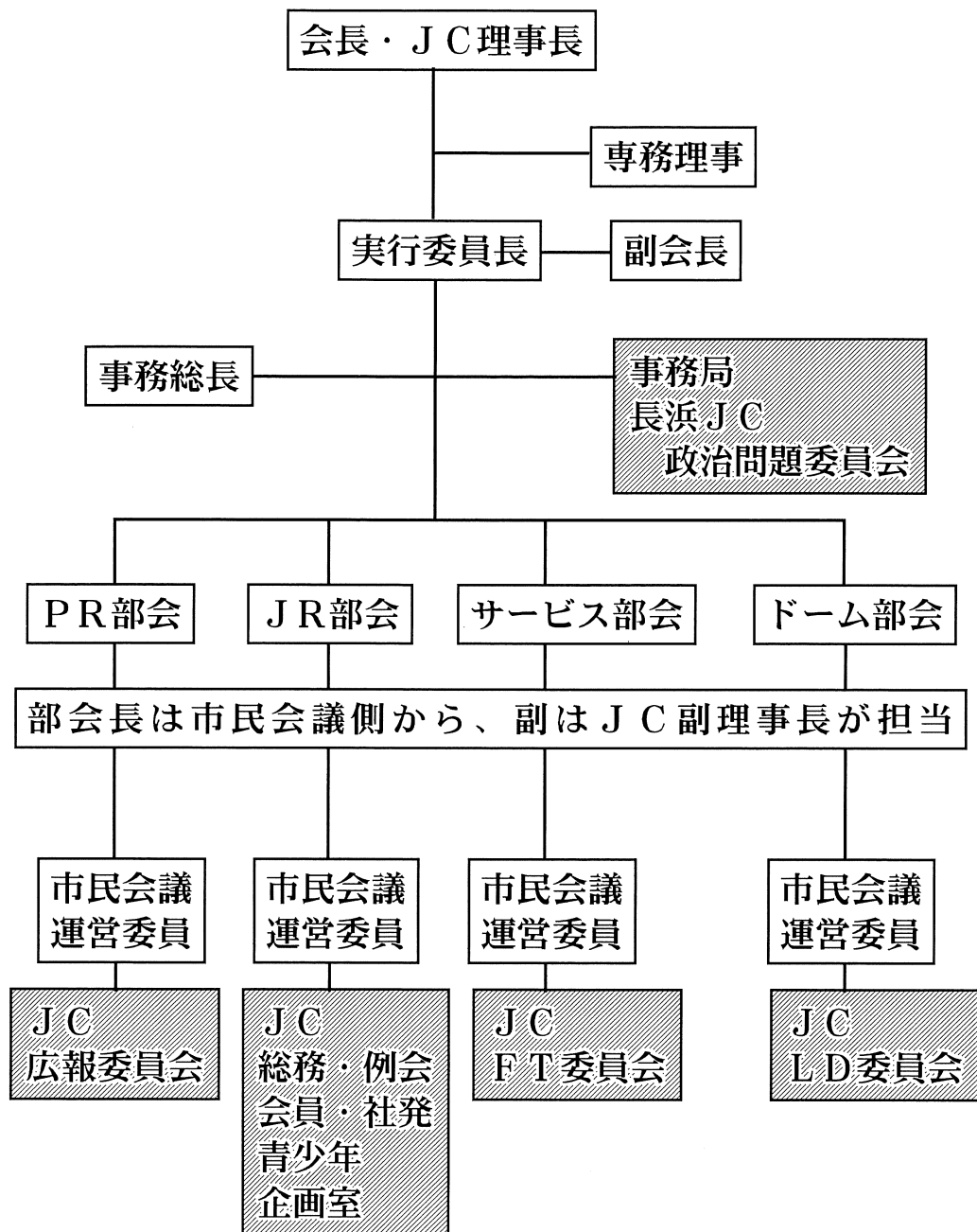
参加者 400名



長浜発の特別臨時列車（夜行）でT O K Y Oドームへ行き、プロ野球を観戦し「長浜ドーム」建設のPRや合わせて北陸本線直流化の必要性を車内イベントを打ながら広く一般市民にPRをおこなった。

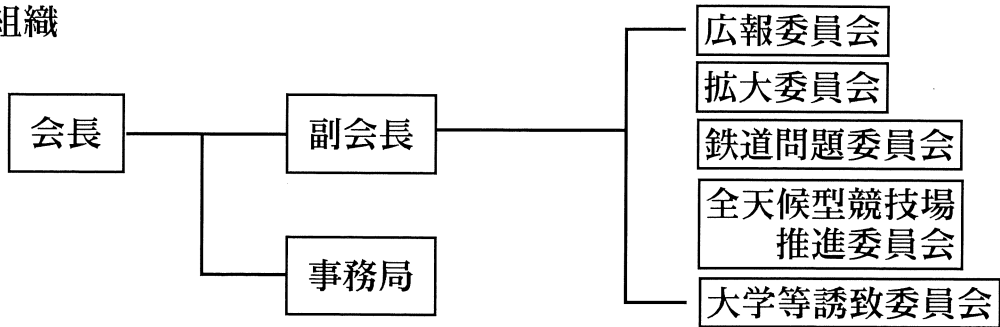
又これに先立ち、市民会議と青年会議所による合同実行委員会を5回にわたりおこなった。

長浜ドームエクスプレス当日組織



平成元年

組織



前々年に『びわ湖一周夢特急』、前年に『長浜ドームエクスプレス』の事業を成功させ、広く行政に、また一般市民に市民会議の運動をPRし、実現にむけて一步一步前進した。本年は、組織を委員会制にし、それぞれが活発に動くことにより内部充実をはかった。

広報委員会

広報氏の発行 11/15 第12号発行

拡大委員会

全会員及び事業参加協力者のリスト整理
個人カードの作成

鉄道問題 委員会

7/15 JR西日本本社、県への陳情
(北陸本線直流化について)
10/20 伊藤県会議員との懇談会
(鉄道問題について)
『第一段階として長浜までの直流化』の回答を得る

全天候型競技場 推進委員会

7/13 県への陳情
(全天候型競技場建設について)

大学等誘致 委員会

他地区での大学誘致に対する現場調査

平成2年

特別列車『春一番・市民号』

主催 ながはま21市民会議

日時 平成2年2月6日(火)

北陸線直流化早期実現を目指し、特別列車アストル号で大阪へ行き、JR西日本へ陳情するとともに、大阪駅で長浜のPR活動を行なった。



PR用に作ったワッペン

シンボルマークの決定

一般市民から公募、多数寄せられた中から、このマークが選ばれた。



対外版『まちづくりとしての北陸線の直流化の意味』を発行

まちづくり懇話会

日 時 平成2年10月22日(月)
場 所 米原町公民館
参加者 米原町助役をはじめ11名と
市民会議側10名

広域問題への取組で、米原町の方々とのまちづくり懇話会を行なった。

平成3年

通常の組織にSTEP（駅周辺開発）特別委員会が設置された。



S TATION T O W N E X C E L L E N C E P L A N
駅 街 卓越・傑出 計画

ギャラリー21の開催

私たち、ながはま21市民会議は、平成3年9月に予定されています北陸線の直流化に伴い、長浜駅およびその周辺地域の公共物を中心に、もう一度見直す必要があると考えました。それは湖北の玄関口として、それにふさわしい大きな夢のあるまちづくりであります。

私たちは、この長浜駅2階にギャラリーを設置し、市民の方々の憩いの場として御利用して頂くと共に、さまざまな情報を提供させていただき、まちづくりの拠点として、お役に立てればと考えました。

どうぞ、お気軽にお立ちよりいただき、市民のサロンとして御利用ください。なお、ご意見等ございましたら、備え付けの意見箱の方へご投稿いただければ幸いです。

長浜駅2階で開催されたギャラリー21の趣旨が書かれた看板

開催日とテーマ

2/22～2/26	長浜いにしえ展	3/22～3/26	日本の駅と鉄道展
4/26～4/30	蘇るステーションタウン	5/24～5/28	疾れ！びわこ周遊列車
6/28～7/2	近江ものしり百科		

北陸線直流化記念事業

平成3年9月14日 長浜豊公園自由広場を中心に10日間に渡って開催

設立当初からの大きな柱の一つであった、北陸本線直流化が現実のものとなり、記念事業もながはま21市民会議の委員が企画運営の中心となり、青年会議所も全面的にバックアップをした。

3か月に渡る会議や2000名動員のボランティア等々、行政・市民・市民会議が正に一体となった事業で大成功を収めた。

駅周辺開発パースの完成

(1) 地域の顔としての位置付け

地域社会において「市街地」と呼ばれる伝統的人口集積区域は地域性や地域文化を育みそれを伝播、熟成していく機能をもっています。市街地の衰退化は地域独特の行事や慣習や風俗が失われていくことを通じ、精神的な地域崩壊現象を呼んでしまいます。今まちづくりに求められているのは、地域の独自性に立脚した地域社会の構築と、そこに住む私たち自身の価値観と美意識の追求であり、そのことが真に普遍的な価値をもつ地域社会の確立に通じるものです。

また一方では都会の新しい情報や商品も様々なルートやメディアを通じて私達の生活にもたらされています。私達の地域ライフにとって時代の最先端ををいく流行や文化に触れることの出来る空間も当然欠くことは出来ません。

長浜の場合、伝統的市街地と新しい東部商業集積、更には湖岸リゾート地区のすべてをシンボライズできるスペースが駅とその周辺であり、地域の「顔」、あるいは「核」としてそれにふさわしい整備が早急に求められています。

(2) 鉄道のもつ輸送手段としての今日的意義

道路事情、交通事故、環境汚染など車にまつわる現象は今やのっぴきならない社会問題であり、モータリゼーションは日本にあってはまもなく飽

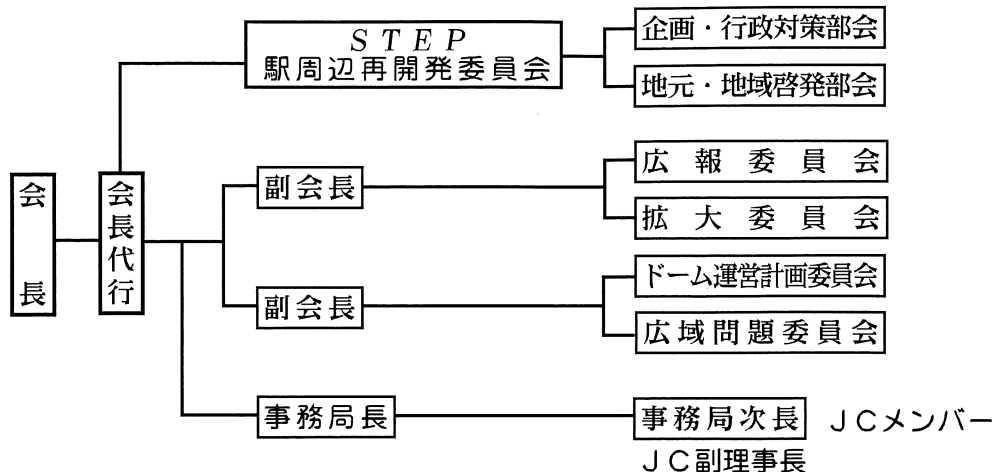


和状態ともいふべき限界点に達するといわれています。また、益々高度化する企業社会では出張等の人的移動がより頻繁になり、進展しつつある高齢化社会においてはより安全で快適な長距離輸送が要求されています。鉄道輸送のもつ利便性と経済性は今後私達の社会でより重要な意義を担ってくるものと予想されます。しかもそれはあくまで自動車交通との連携の中でとらえられるべきで駅までの交通アクセスの整備や大規模駐車場といった施設は、駅と、その周辺を考えていくとき、大きなファクターを占めています。

(3) 駅を中心とした新たなコミュニティーの構築

現在の長浜の人口微減現象は基本的には住宅地の絶対数の不足であります。駅と鉄道のもつ利便性は住宅地としての機能を生みます。駅と駅周辺に高層化された快適な住宅施設の整備を施すことによって人口の増加にも繋がり、地域の活力の源ともなります。そして、公的機関の駅周辺への移転により、新たなコミュニティーが生まれてきます。更に市街地での新住宅空間の出現は、湖北一帯で潜行する二世帯別居志向にも対応でき、家族制度も含め「地域人としての我々の生き方」をも変えていくことでしょう。

平成4年



会員全員対象の総会開催 及び 長浜ドーム完成前の見学会

日時 平成4年2月2日

場所 長浜商工会議所 大ホール
長浜ドーム

一般会員対象に、総会を開き経過報告と、STEPに関する概要説明および駅周辺の完成予定図（パース）を公開、具体的な説明を行なった。

また、ドームの完成前（6月完成）にいち早く会員の皆さんに見学をしていただいた。

長浜ドームオープン

平成4年6月20日に念願の完成

どの様に今後ドームを発展させていくかを考える
「ドーム運営計画委員会」を新設

○広域問題委員会

湖北を大きな一つの都市として考え、10万人都市の実現を目標とする。合併に関しては、過去からの市民や行政等広く資料を集め、さらにこれからの湖北について十分に検討しこの先5年10年と時間をかけて進めて行きたい。

おわりに

湖北長浜の輝かしい歴史と文化は、湖北人氣質の中にある進取の気性に依るところが大きい。鉄道や黒壁等、上げればきりがなほ先取りの精神が息づいている。それがさりげなく土壌となり、様々な文化を育んできたのである。

(社)長浜青年会議所は、この土壌を更に耕し『曳山博物館構想』『湖北広域圏構想』そして『湖北連邦構想』へとまちづくりの樹を植えて行ったのである。

「ながはま21市民会議」はこの土壌から、生まれるべくして生まれてきたといっても過言ではない。

今、湖北長浜に何が必要か、どのように行動すべきか、常に情報を先取りし、その時その時に適したまさにタイムリーといえる事業を展開してきた。そして、その結果として、市民憲章、直流化やドームといった具体的な形でまちづくりの歴史をきざんできている。

長浜青年会議所が『湖北連邦構想』を提唱するのとほぼ時を同じくして、市民会議においても広域問題委員会が設置され、アプローチの仕方は違っているが、湖北は一つという認識の上で、まちづくりを起こそうとしている。

このように、長浜青年会議所は事務局として、側面からバックアップするとともに、それぞれ役割を分担しながらまちづくりを進めて行くという理想的なパートナーとして邁進していくであろう。

平成5年度 褒賞委員会
委員長 加藤悦二

ながはま21市民会議班

委員 田中博司
委員 古川 衛
委員 林 章浩
委員 清水政伸



平成5年度 褒賞委員会